

論文審査の要旨
Summary of Dissertation Review

博士の専攻分野の名称 Degree	博 士 (学術)	氏名 Author	IMRAN MD.MASOOD
学位授与の要件	学位規則第 4 条第①・2 項該当		
論文題目 Title of Dissertation “Safeguarding-Governmentality” of the Cultural Heritage: Democratising, Conserving, and Representing the Past(s) of Bangladesh			
論文審査担当者 Dissertation Committee Member			
主 査 Committee Chair	広島大学大学院国際協力研究科	教授 関 恒樹	印 Seal
審査委員 Committee	広島大学大学院国際協力研究科	准教授 後藤 大策	
審査委員 Committee	広島大学大学院国際協力研究科	講師 中空 萌	
審査委員 Committee	広島大学大学院文学研究科	教授 友澤 和夫	
審査委員 Committee	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所	教授 外川 昌彦	
〔論文審査の要旨〕 Summary of Dissertation Review 本論文は、バングラデシュの聖者廟などの文化遺産の保全に関し、「歴史」をめぐるいかなる言説の拮抗や政治が展開されているかを明らかにし、その上で、過去をめぐる多様な声を反映する文化財の保存・展示の在り方を探ることを目的としている。第 1 章は、序論として、研究の目的、問題の所在などが述べられ、特に本論文の分析視点である、遺跡保存をめぐる統治性 (safeguarding-governmentality) の概念に関して論じられる。第 2 章は、調査地の概略として、バングラデシュにおける仏教、ヒンドゥー教、イスラーム教など複数の聖者廟と、比較対象としたネパール (Bhaktapur) の遺跡の概略が述べられる。第 3 章では、これらの遺跡が UNESCO の基準に基づいて、世界遺産となるプロセスが述べられる。第 4 章では、UNESCO の基準に依拠したバングラデシュ政府の文化遺産保護の政策と実践、そこに内包される規範、価値観などが、遺跡周辺に居住する住民たちの歴史、過去、遺産に関する観念と相いれないことによって生じる齟齬、摩擦、対立が明らかにされ、「上からの」遺産保全に内包される統治性権力が論じられる。第 5 章は、遺跡周辺住民をはじめとした民衆の歴史観を探るために、人々の口頭伝承、神話、民俗などが検討され、人々の歴史観の多様性が論じられる。第 6 章は、人々の多声的な歴史観を取り込んだ、遺産の保全と展示のための、具体的な提案が行われる。遺跡周辺住民たちの口頭伝承を生かした写真やビデオ展示、そして 3D モデルを用いたデジタル展示の活用など、来館者との双方向性をめざした、博物館展示の方法の可能性などを論じている。第 7 章では、結論として、UNESCO やバングラデシュ政府主導の保全が有する統治性の性格、それに対する多声的な人々の歴史表象、そして人々の歴史表象を取り込んだ展示の可能について論じられる。このような内容を持つ本論文は、文化人類学分野における統治性概念を、ポストコロニアル状況における遺産保全の分析に用いたオリジナリティを持つ研究として高く評価できることから、審査員一同の合意のもと合格と判断された。また申請者は既に英語での査読付き論文を 7 本公表しており、早期修了にふさわしいと判断された。			